

30年の北陸観測所地震データ

Microearthquake data observed by the Hokuriku Observatory in these 30 years

竹内 文朗 [1]; 澁谷 拓郎 [2]; 平野 憲雄 [3]; 西上 欽也 [2]; 岡本 拓夫 [4]

Fumiaki Takeuchi[1]; Takuo Shibutani[2]; Norio Hirano[3]; Kin'ya Nishigami[2]; Takuo Okamoto[4]

[1] 京大・防災研・地震予知セ; [2] 京大・防災研; [3] 京大・防災研; [4] 福井高専

[1] RCEP, DPRI, Kyoto Univ.; [2] DPRI, Kyoto Univ.; [3] DPRI, Kyoto Univ.; [4] FNCT

北陸観測所は京大防災研の観測所の一つで、福井県に建てられた、1974年に開所となり、石川県、福井県、滋賀県に7点の観測点を持ち今日も観測を続けている。微小地震の観測を主に、電磁気、地殻変動などの観測を行なっている。

現在、1976年以後得られた地震数は気象庁データも合わせて、6万個程度に及ぶ。

この地域の地震は1948年の福井地震、濃尾地震の余震と思われるものが目立つほか、ほぼこれに平行に走る琵琶湖東岸の柳ヶ瀬断層沿いの地震など線上配列が多い。また、最近では柳ヶ瀬断層北の約20km東方でM4.5を主とする活動が盛んになる等の特徴を見せている。

ポスターではこのような特徴を挙げてみたい。